

腸管出血性大腸菌



腸管出血性大腸菌感染症とは

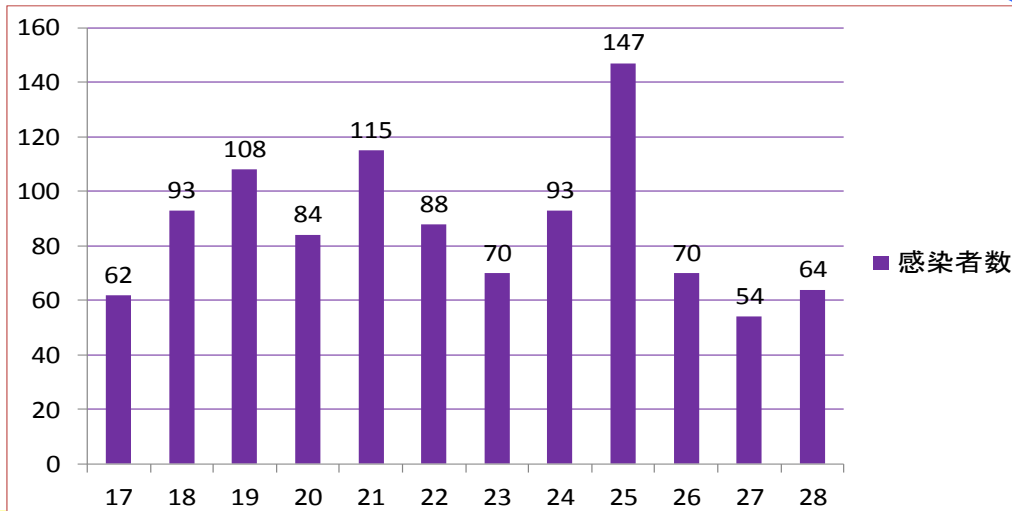
腸管出血性大腸菌感染症は、腸管出血性大腸菌のついた食品や人から、この菌に感染することによって起こる病気です。

この菌に感染すると、腹痛・水様下痢・血便などの症状がみられます。このような症状が出たら、早急に医療機関を受診するようにしましょう。

菌が少数でも感染するため、人から人への感染による集団感染事例（保育所など）や家族内感染事例が多く報告されています。

この感染症を予防するには、①菌をつけない ②菌を増やさない ③菌を殺す ④菌のついていないものに菌をつけてしまう二次感染に注意 ⑤人から人への二次感染に注意することが重要です。

感染者数の推移（福岡市）



福岡市では毎年約100名前後の方の感染が報告されています



検査方法

福岡市では、疫学調査や遺伝子解析により腸管出血性大腸菌感染症の原因を究明し、感染拡大防止に努めています。

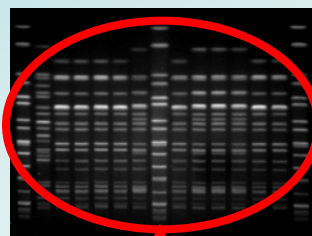
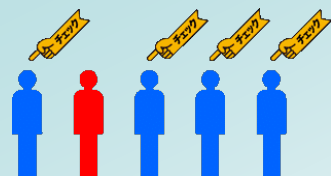
また、患者の方から菌が検出されなくなったか、周りの人が感染していないかを検査して、感染拡大防止に努めています。

保健環境研究所では、菌の検出に加え、菌の『遺伝子解析』を実施しています。

菌の検出

菌の遺伝子解析

疫学調査



+

食べたもの
飲んだもの
発症日時
…など



原因究明
感染拡大防止

- ★ 患者からの菌の検出
- ★ 菌が検出されなかったか？
- ★ 周りの人に感染していないか？

同じパターンを示すと
感染源は一緒とみなすことができる